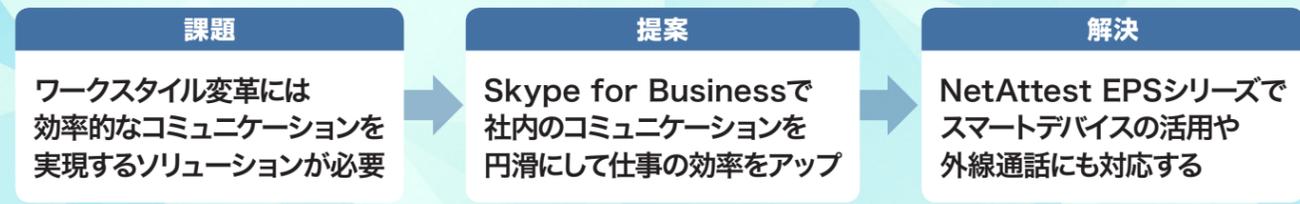


Skype for Business × NetAttest EPS × NetAttest D3

ワークスタイルでステップアップできる 統合型コミュニケーションソリューション

ワークスタイル変革において、効率的なコミュニケーションの実現は重要なポイントのひとつ。スマートデバイスの活用から外線電話との連携まで、ワークスタイルにあわせてさまざまなコミュニケーション手段を統合できるソリューションが求められる。



ワークスタイル変革のポイント

ICT技術の進歩やビジネスのグローバル化などが進むなか、企業にはさまざまな変化が求められている。ICTを利活用して社員の多様な働き方を実現する「ワークスタイル変革」もそのひとつ。ワークスタイル変革の推進は、仕事の効率や生産性を向上させたり、グローバルな競争力を強化させたりすることにつながる。

ワークスタイル変革の実現にはいくつかのポイントがある。例えば、スムーズかつ効率的なコミュニケーションを可能にするソリューションの構築は重要なポイントのひとつ。ソリューション自体が利便性に優れているのももちろんのこと、ワークスタイルによっては安心・安全に利用できるセキュリティの高さやスマートデバイスと

の連携などにも必要な要素となる。

情報通信ネットワークシステムの企画やコンサルティング、設計、施工、保守などを長年担っている富士通ネットワークソリューションズでは、ユニファイドコミュニケーション基盤としてマイクロソフトの「Skype for Business」を導入し^{*}、その利便性をユーザーにも提唱、提供している。さらに、多彩なネットワーク認証機能を持つソリトンシステムズの「NetAttest EPS」を利用してスマートデバイスとの連携を可能にするとともに、「NetAttest D3」とIP電話機との組み合わせで外線利用にも対応。ユーザーのワークスタイルにあわせた統合型のコミュニケーションソリューションを、3ステップの「ワークスタイル変革」として提案している。

社内コミュニケーションを円滑に

1つ目のステップは、マイクロソフトの「Skype for Business」で社内コミュニケーションを円滑化する「自席ワークスタイル変革」だ。

Skype for Businessは、2015年4月に名称を改めて登場。デザインなども変更されてはいるが、Lyncの機能はすべて

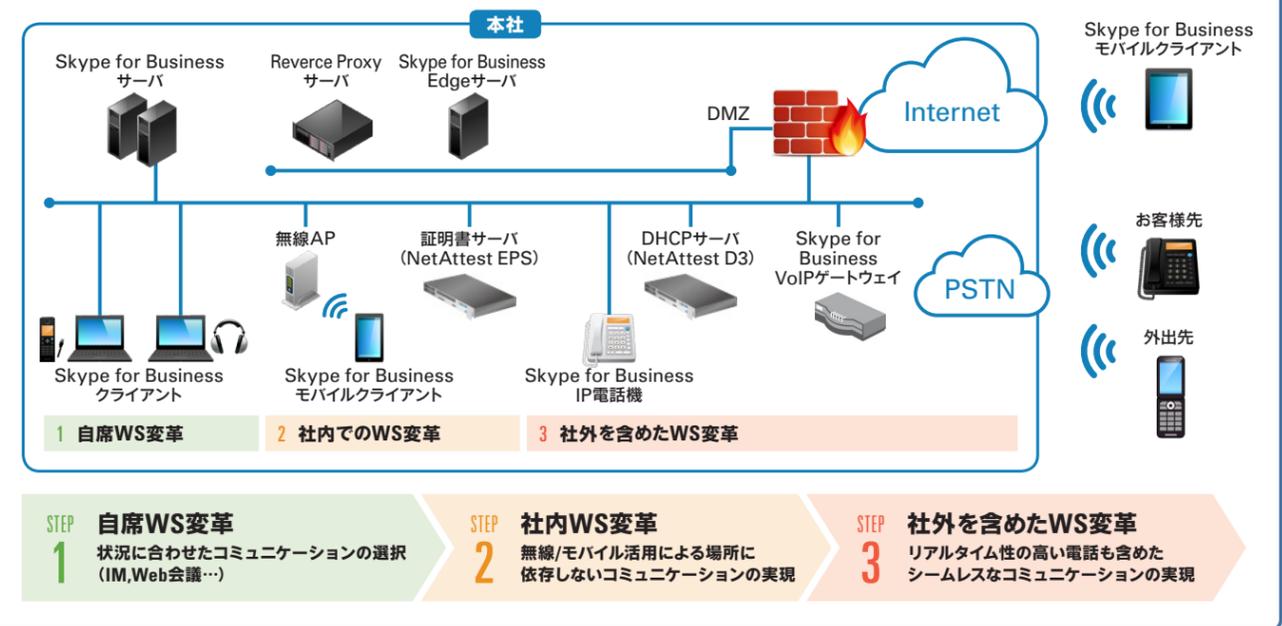
継承している。主な機能としては、インスタントメッセージでのメッセージの送受信やファイル共有、音声やビデオでの通話、オンライン会議などを搭載。ワークスタイル変革のベースとして、企業内での情報共有やコミュニケーションをサポートする。

さらに、社内での円滑なコミュニケーションを実現するうえで外せないのが、連絡を取りたい相手の状況を自席のPCからリアルタイムで確認できる「在席管理」機能。相手の状況に応じて連絡手段を使い分けることで、仕事の作業効率をアップすることができるわけだ。

例えば、社内の仕事仲間と連絡を取りたい場合、まずはこの機能で相手の状況を確認。相手が自席で電話中であればメッセージャーを使用し、外出中であれば携帯電話へ直接連絡することで無駄なアクションを減らすことができる。

また、メッセージャーでやり取りをするうちに電話で話した方が早いとなれば音声通話へスムーズに移行できるほか、音声通話でやり取りをしながら共有したいファイルが出てきた場合でも、ファイル共有機能で速やかにファイルを共有することが可

Skype for Businessで構築できる統合型コミュニケーション環境のイメージ



能。統合ツールとしての連携性の良さも、強みのひとつといえるだろう。

端末認証でスマートデバイス活用

もちろん、Skype for Businessの機能は自席以外でも利用できる。例えば、社内の打ち合わせスペースや会議室でも、無線LANなどで社内ネットワークに接続できる環境があれば、ノートPCやスマートフォン、タブレット端末などで相手の在席状況をチェックしたりメッセージを送受信したりすることが可能だ。無線LAN環境やスマートデバイスを活用し、場所に捕らわれない社内での自由なコミュニケーション環境を構築することが2つ目のステップ「社内ワークスタイル変革」となる。

しかし無線LAN環境は、どんなデバイスでも自由にアクセスできる利便性を備えるのは裏腹に、不正アクセスの危険性を高めてしまう可能性も秘めている。そこで、社内の情報を守るためにより強固なセキュリティ機能を確認し、Skype for Businessでのスマートデバイス利用を実現するのがソリトンシステムズの「NetAttest EPS」だ。

NetAttest EPSは、電子証明書によるデバイス認証やワンタイムパスワードの発行を可能にし、社内のネットワークにアクセスする端末を厳重に管理できるネットワーク認証アプライアンス。通常のIDとパスワードによる利用者認証にデバイス認証をプラスすることで、認証されていないスマートデバイスやノートPCなどからの接続をネットワークの入口でブロックする。不正なユーザーによる侵入を厳重に防止するのはもちろんだが、シャドーITの抑制やBYODへの対応などにも大きな効果を発揮するはずだ。

外線利用でさらなる効率化を

3つ目のステップは、Skype for Businessを外線電話にも拡張させた環境を構築する「社外を含めたワークスタイル変革」。あらゆるコミュニケーション手段をシ

ムレスに統合し、マルチデバイスで活用することで業務の効率化を目指す。

外線通話にはSkype for Business対応のIP電話機を利用するが、その際にIPアドレスの管理などを担うのが「NetAttest D3」となる。NetAttest D3は、DHCPとDNSに特化した専用アプライアンス。DHCPサーバーやDNSサーバーを最大4重にまで冗長化することが可能で、万が一の障害発生時でも安定した通信環境を確保できるのが特徴だ。

また、外線電話への対応によって従来のPBXシステムをSkype for Businessに置き換えることができれば、通信コストやランニングコストなどの削減につながるケースもある。コミュニケーション基盤の集約がコストダウンにもつながるといえる点は、導入におけるひとつのポイントとなるだろう。



ネットワーク認証アプライアンス
「NetAttest EPS」と「NetAttest D3」

※導入済みシステムは「Lync」

【お問い合わせ先】

富士通ネットワークソリューションズ株式会社
電話:0120-20-7430
受付時間:9:00~17:00(土、日、祝日は除く)
URL:http://www.fujitsu.com/jp/group/fnets/



富士通ネットワークソリューションズ株式会社